平成１９年１１月８日

各　　位

会 社 名　　株式会社クワザワ
代表者名　　取締役社長　桑 澤　嘉 英
（コード番号　　８１０４）
問合せ先　　常務取締役　桑 澤　孝 通
（ＴＥＬ．０１１－８６４－１１１１）

中間業績予想の修正および特別損失の発生に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成１９年５月１５日の決算発表時に公表した業績予想を修正いたしますとともに、特別損失を計上することになりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．中間業績予想数値の修正

①平成２０年３月期中間連結業績予想数値の修正（平成１９年４月１日～平成１９年９月３０日）

（単位：百万円）

	売 上 高	営業利益	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 （A）	43,000	△80	△50	△300
今 回 修 正 予 想 （B）	43,739	△246	△194	△1,307
増　減　額 （B－A）	739	△166	△144	△1,007
増　減　率 （%）	1.7	－	－	－
(ご参考) 前期実績(平成19年3月期中間)	43,348	27	96	△101

②平成２０年３月期中間個別業績予想数値の修正（平成１９年４月１日～平成１９年９月３０日）

（単位：百万円）

	売 上 高	営業利益	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 （A）	31,000	90	120	△130
今 回 修 正 予 想 （B）	29,810	91	156	△1,238
増　減　額 （B－A）	△1,189	1	36	△1,108
増　減　率 （%）	△3.8	1.3	30.8	－
(ご参考) 前期実績(平成19年3月期中間)	29,891	120	194	78

２．修正の理由

①連結業績予想

当上半期は、新規連結子会社４社（株式会社ネストエージェンシー、東日本自工株式会社、和寒コンクリート株式会社、クワザワサッシ工業株式会社）の売上が寄与し、売上高は前回予想を７億３９百万円上回る見込みです。しかし、競争激化による売上総利益率の低下と仕入コストの増加が大きく影響し、営業利益は１億６６百万円、経常利益は１億４４百万円それぞれ前回予想を下回る見込みです。また、事業損失引当金３億５１百万円およびあらたに発生した減損損失１億６０百万円を特別損失に計上し、さらに、繰延税金資産の回収可能性について、財務の健全性の観点から慎重に検討した結果、その一部を取崩し、法人税等調整額に２億３５百万円を計上する予定でおります。このため、中間純利益は前回予想を１０億７百万円下回る見込みとなりました。

②個別業績予想

当上半期は、建築基準法改正による新設住宅着工戸数減少の影響が出始めたことから、売上高は前回予想を１１億８９百万円下回る見込みですが、営業効率の改善と経費の削減が功を奏して、営業利益は１百万円、経常利益は３６百万円それぞれ前回予想を上回る見込みとなりました。

しかし、中間純利益においては、関係会社株式評価損５９百万円および関係会社損失引当金８億７０百万円を計上し、また法人税等調整額２億９６百万円を計上する予定のため、前回予想を１１億８百万円下回る見込みとなりました。

なお、通期（平成１９年４月１日～平成２０年３月３１日）の業績予想につきましては、改めて予想数値の見直しを行い、中間決算発表時（本年１１月１５日予定）に公表する予定です。

３．特別損失の発生およびその内容

①連結

住宅販売子会社が手掛ける宅地造成販売事業の計画見直しから、将来に発生すると予想される損失について、事業損失引当金として３億５１百万円を計上するとともに、これによってあらたに発生した減損損失１億６０百万円などを特別損失として計上する予定であります。

②個別

上記のとおり、住宅販売子会社において、事業計画見直しから事業損失引当金を計上するとともに減損損失などの発生が見込まれるため、当社は支援損失として関係会社損失引当金８億７０百万円および関係会社株式評価損３９百万円を特別損失に計上する予定であります。

※ 上記の予想は、現段階において当社が入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって異なる可能性があります。

以　上